

Z o o m

2021.11.15

あれは、8月7日（土）だった。私が、初めてW e b会議に参加した日である。いくつかW e b会議システムサービスがあるが、その日は「Z o o m」を使用した。全国規模の研修会が、初Z o o mとなってしまう、多少緊張しながら自宅のパソコンに向かった。

それ以来9月、10月になると、個人的な会も含めると、多いときは週に2回も3回もZ o o mを使った。学校では、指導者用のタブレット、自宅では書斎にあるパソコン、ときにはスマホを使ったこともある。

一番いいのは、自宅のパソコンである。安定している。ただ、欠点がある。片付かない書斎の本棚が、背景として入ってしまう。そこで、背景をぼかすスキルを身につけた。

8月中旬には、仕事において県内各地を結ぶ大事な会議をZ o o mで行った。質疑応答がスムーズにいくのか心配されたが、思いの外、うまくいった。これならば、Z o o mでも十分、その会議のねらいを達成できると思うことができた。

思い返してみると、私の場合は、もう10年以上も前にW e b会議を経験していた。中学校の教頭をしているときである。地区内の教頭による会議を年に数回、W e bで行っていた。システム名は忘れたが、Z o o mではなかった。時折、音声途切れたり、ビデオが映らなかったりした。安定しているとは言い難かった。今思えば、先進的な取組をしていたものである。

また、9年ほど前に、知り合いの先生が小学校の校長をしている学校に、国語科の指導で呼ばれたことがあった。一度目は、実際に出かけてお話をした。二度目からは、W e b会議システムを使って授業を参観し、指導助言も行った。あれも、かなり先駆的な取組だった。すごいのは、それを考えた知り合いの校長先生である。その方は、ご退職後、現在、福島市教育委員会のI C T指導員としてご活躍中である。当然の帰結である。

週に2回から3回、Z o o mを使っているということは、本来であれば、その分だけの出張等があるということである。それが、出かへずに済むのである。劇的な変化と言える。現状は、コロナ禍の影響からW e b会議を使用している側面が強い。会議の内容や進め方にもよるが、コロナ禍が収束した後でも、実際に集まり対面で行う会議や研修会と、W e bでも可能なそれとを分けて考えるべきである。特に、福島市に県内各地から人が集まるような会議や平日の夜に集まるような研修会などは熟考に値する。

今のところ、教育界を含め世の中は、Z o o mが主流のようである。だが、福島市はW e b e xを使っている。私のような素人からすると、どちらも大差はない。どちらも便利なシステムである。何回も使っているが、参加しているだけである。まだ、ホスト役を担って運営したことがない。今後の課題である。とりあえず、世の中の波に乗り遅れないようにしていきたい。